

XJ750E

1981年 / 市販車

「スリム&コンパクトで操る楽しさ」を重視したヤマハ発動機のモーターサイクルづくりの基本が明快に表現されたモデル。空冷・4ストローク・DOHC・並列4気筒エンジンはジェネレーターをシリンダー背面にレイアウトした設計により、従来の750cc クラスの4気筒にはないスリムなエンジン幅を実現、美しくフィンが刻まれたシリンダーは、マシンとしての存在感を強く主張している。駆動方式はメンテナンス性に優れたシャフトドライブを採用し、チェーンドライブに比べて振動が少なく静かで滑らかな走りを実現した。

XJ750E は、長距離ツーリングにも適した軽快でコントローラブルな操縦性とシャフトドライブの快適な乗り心地、信頼性の高いエンジンにより、スポーツツアラーとして多くのファンを獲得した。その後の XJ シリーズの方向性を決定づけるモデルとなった。

